

## 【市民生活分野】

### (コミュニティ)

- ・少子化や厳しい経済状況の中、中山間地域では有害鳥獣対策や雪対策などの問題もあり、いかに地域コミュニティを維持していくかが課題である。
- ・住みよいまちづくりには町内会だけではうまくいかないなので、消防活動や交通安全活動など、いろいろな組織と連携を図り、共通理解を深めていくことが必要。
- ・いざ何か問題が生じたとき、地域住民が互いに助け合うことができるよう、成功事例をお互いに学ぶ機会を設けてはどうか。
- ・老人だけでなく、一人暮らしの若者や夫婦共働きで片方の調子が悪くなった時に、素早く隣近所の助けを借りられるような体制を作ることも必要。
- ・新聞やテレビの報道だけではなく、人と人がつながる、膝を交えて話し合う住民の会を用意し、そこに行政が入り込んで指導等を出来るような形をとってほしい。

### (空き家)

- ・空き家の利用について、人口増加に資するものとして定年者、県外からの移住者をそこに受け入れていくため、市として積極的に県外にPRしてはどうか。

### (婚活)

- ・婚活は地元の人が地元のイベントを敬遠する傾向があるので、広範囲の組織で開催したり、昔のように世話好きの年配者の紹介で結婚する人が増えることを期待する。
- ・婚活について、1, 2 組決まったから成功ではなく、継続して取り組んでいく必要がある。

### (若者)

- ・若者の減少が、消防団活動に影響を及ぼしたり、地域行事にそもそも若者が参加しないなどの課題が見られる。

**【健康福祉分野】**

(少子化・人口減少)

- ・少子化、人口減少、婚活などの課題に対し、年配者の知恵や情報をもっと生かしていくべき。
- ・高齢化は当然だが、少子化が重要な問題であり、労働人口、生産人口の減少に繋がるので、合計特殊出生率の増加を抜本的に考えていく必要がある。
- ・ここに住んでいる人がここに生きていて良かったと思えなくて、他の方々を呼び込むことはできない。

(子育て)

- ・経費をかけて婚活支援をしても結婚まで至るケースが少ないのではないか。子どもを産んだ後の子育て経費に関する先行き不安の声があり、子供を預かる幼稚園前の保育所等を完全に整備するなど、安心して子供を産めるような対策を望む。

(高齢者)

- ・高齢者の支援体制の整備について、地域で出来ることは地域住民がお互いに助け合っていくべきで、例えば隣組単位ごとに高齢者を見守る福祉協力員制度のようなものを設けてはどうか。
- ・これからの超高齢社会は、今の常識では乗り切れないと考えられ、高齢者の尊厳を保ちつつ、安心して老後を暮らせる地域づくりが地域に求められる。
- ・国では「地域包括ケア」という、医療・介護・福祉・生活支援・住宅支援など包括的に高齢者を支える社会づくりを目指しており、そのためには住民、地区医師会、行政が一緒になって取り組んでいく必要がある。
- ・これから介護等が必要な85歳以上の人が圧倒的に増えていくので、その人たちをどう地域の中で一緒にみていくかは、発想の転換をし、知恵を絞っていかなければならない。

(福祉)

- ・鶴岡市においても全ての地域に福祉協力員制度を設けるとともに、その活動が円滑にできるような手立てをして欲しい。

(民生委員)

- ・民生委員のなり手が不足する中、児童虐待、高齢者に対する虐待、引きこもりの調査など、民生委員に対する負担も増加している。

**【教育文化分野】**

(学校統合再編)

- ・高校の合併については、教育委員会に丸投げのような形にせず、協議にあたってはその地域の話をしっかり聞いてほしい。せっかく山大の農学部が鶴岡にあるので、庄内農業高校だけは合併せずに残して欲しい。
- ・小学校・中学校の学校再編について、非常に難しい面もあるが、これからの子どもの教育という観点から致し方ない面もある。

(文化会館等)

- ・新しい文化会館の建設が進んでいるが、より良いものを作るためには、もっと関係者の協力が必要ではないか。
- ・加茂水族館や文化会館が新しくなるが、物ができることに気を奪われて、そこで何をするかということへの思いが薄れてきているのではないか。

(人材の育成・教育)

- ・教育が最重要課題であり、一人前の社会人の育成などのためには、社会教育、家庭教育、学校教育の役割が重要である。

(若者)

- ・オリンピックに出れるような才能ある若者への支援、育成を行い、その若者たちが地元に戻れるような環境づくりが必要。また、スポーツに限らず、文化活動やボランティア活動その他で、高い知識や技術を持った若者が帰ってくる事が出来る魅力ある市にしていくことを望む。

**【農林水産分野】**

(森林活用)

- ・朝日地域のほとんどが森林であり、その森林をいかに活用し、保全していくかが課題である。
- ・地域の里山を豊かにし、山に寄り添った暮らしを模索することが大事ではないか。
- ・木質バイオマス発電が国、県、市、企業と一緒に実施されようとしており、実現に向けた協力をお願いしたい。
- ・中山間地域における木質バイオマス発電は、農林水産業の振興に大きく貢献する。
- ・山が荒れると海も荒れると言われているが、子どもやお年寄りからこのまちに住んで良かったと言われるよう、今後とも森林組合の活動にご協力いただき、山を大切にしたい。

(有害鳥獣)

- ・猿や熊の被害が大変大きくなっているが、猟友会の人材不足が課題となっており、その会員増のため、市からの支援をお願いしたい。

(海づくり)

- ・「全国豊かな海づくり大会」という大きな事業を、是非とも鶴岡市の方に招致できるように運動してほしい。

## 【商工観光分野】

### （雇用）

- ・雇用について、有効求人倍率はそこそこであっても依然大変厳しい状況にあり、特に若い人達がその中から将来をかけて働くという仕事は少ないのではないかと。
- ・どんどん若い人が減って、特に介護や医療分野において労働力は不足してくるので、高齢者や女性の労働力が必要となり、そうした分野に人材を活用し、活性化を図るといい。
- ・30年後の人口減少予測を見ると鶴岡よりも減少率が小さい自治体もあり、その差は企業の誘致、育成、条件の良さなどの差と思われることから、本市としてもそこにお金をかけていくべきではないか。
- ・商工会議所として高校生の地元就職者を増やす取組みを推進しているが、Uターンの22歳の人たちをいかに地元に戻すか、企業と連携しながら努力が必要と考えている。

### （観光振興）

- ・どこの地域にも観光資源があるが、単に来てくれといっても観光客は来ないので、来てもらえるような工夫が必要。
- ・観光ガイドも高齢化しているが、後継者となる若者はサラリーマンが多く、募集するにしても厳しい現状である。
- ・観光産業は、交流人口の増加、雇用の拡大に大きく寄与し、農商工観連携の推進は極めて重要であり、その意味で食文化の推進は観光と一体となって大きな影響をもたらすことが期待される。
- ・山形DCなどを機会として商品企画、ルートの設定をより一層進めていく必要がある。
- ・加茂水族館や文化会館などの施設整備を契機に全国規模のイベントを開催するなど、そうした施設を活用し、観光振興にも生かすべき。
- ・観光に関して、昔は団体客が多かったが近年は個人客が増加しており、体質がかなり変わってきている。
- ・旅行スタイルの変化など、情勢に合わせた情報の発信について、ウェブサイトなどインターネットの活用も図っていくことが必要で、官民一体となって取り組むべき。

**【社会基盤分野】**

(高速交通)

- 交通網の整備が重要で、日東道の計画、羽越新幹線、庄内空港の利活用等、交通網の整備をより一層求めていくことが重要。
- 日沿道について、温海にサービスエリアを設置して欲しい。

## 【企画分野ほか】

### （重点事業）

- ・企画専門委員会で重点事項の検討をするようだが、各専門委員会の段階で各分野の重点事項をある程度整理するようにして欲しい。例えば、最優先でやること、5年間の中でやること、努力目標的な扱いのものなど、3つくらいに分類するとともに、ロードマップ的なものもあわせて考えてもらえるとありがたい。
- ・総花的ではなく、重点的に事を進めるに当たっては、総体的に優先度を考えたり、市民各位の相互理解を促進する必要がある。
- ・総花的ではなく必要ところに重点的にお金をかけるべき（例えば、企業誘致、企業育成、若者育成等）。

### （将来人口）

- ・5年先の推計人口を明確にし、それを見据えて具体的な検討をすべき。
- ・鶴岡の将来の予測人口のデータを用意して欲しい。

### （共通理念）

- ・何かにみんなで取り組む場合、鶴岡の暮らしはこうあるべきだとか、鶴岡はこうするべきだというような理念、暮らしの哲学のようなものが市民の間で意識共有されていないと難しく、そうしたこともこの機会に市民の意見を聞く必要があるのではないか。

### （公務員）

- ・公務員やそれに準ずる団体職員からは、スピード感やコスト意識を学んで欲しい。小説の「県庁おもてなし課」は参考になる。